



左 厚みのあるアーチの連なりが、店内に安心感をもたらしています
右 落ち着いた間接照明の光彩に浮かび上がる「ワインタワー」が、空間の品格をさらに高めてくれます。

まったく予期せぬ出来事だった……。公職の仕事で、担当の地域にご挨拶に伺ったハンガリー政府観光局から頂いたご縁が現在のレストラン開業のきっかけとなる……。フィナンシャル・インタメディアリーとしての習熟した知識と持ち前の行動力で両国の親善と友好、そして、新たな関係を育む壮大な事業企画へと大きく発展し次の社会・世界を見据えた情報発信の基地を創る。



風水店舗を訪ねて

トカイ 銀座4丁目 ハンガリーワイン&レストランTOKAJ銀座

『龍が水を飲みに来る場所』を創り、「過去の時勢との訣別」を図る。異業種に参入する覚悟と理想を胸に、ハンガリーと日本の友好に貢献する。

2Q 『風水店舗』を実際に造られるまでには、どのような変化や体験がありましたか……。

ベンチャー企業での試みは、非常に時宜を得ていたのかとても順調に成長していきました。しかし一方、私の中ではまた、新たなアイデアと事業欲が芽生え始めてきました。それは「死ぬことへのリスクヘッジ」ではなく、「生きていくことへのリスクヘッジ」に対するファイナンシャル・インタメディアリー業務を専門的に行う事業会社構想で、グループ内に子会社を設立し、その会社の社長に就任しました。その後、この事業も順調に成長していったことから、会社をMBO(役員による株式取得)によって完全独立会社とした後、株式上場を目指すことになりました。それを期に社名も変更し、「総合金融アドバイザー」会社として新たな出発を始めた2001年9月、事件は起こりました……。

当時、私はアメリカのノーベル賞候補にも選ばれる経済学者が考案した「投資分析ソフト」の日本語版ライセンスを取得し、その開発を急いでいました。ところが、そこに起きた大事件が「9・11」でした。ベンチャー・キャピタルからの出資が延期となり、会社は開発費が捻出できず危機に直面しました。そこで生き残りを賭けて、私はアメリカに直談判に行く決断をし、会社の人員整理や効率化を進め、交渉に臨みました。その結果、「日本人」を創り事業と開発を継続することができましたが、そのときの苦い経験を忘れることができず、「首切り」までしなくてはならない事態を起したことが、その後の私の人生に大きな教訓を残したと思っています。「天の時、地の利、人の和」。これは松永先生が私に贈ってくださった座右の銘でもあります。

その後、私はこのような経験を活かして同様の課題や問題を抱える多くの中小企業家の助けになればと「東京中小企業家同友会」の理事兼港支部長になりました。様々な会合に出席する中で運命的な出会いが起きました。「ハンガリー」この出会いです。ハンガリー政府関係者の方々とお話をし、また、当地を何回も訪ねるうちにハンガリーの至宝とも言われる「カフェ・ジェルボー(CAFÉ GERBEAUD)」に魅了され、昨年150周年を迎えた「ジェルボー(GERBEAUD)」を日本に誘致したいと思いはじめました。そして、そのための新たな会社を興し、ハンガリー文化、その第一歩として「食文化」を日本の中で認知度を上げるためのレストラン事業を始めることを思い立ち、この「トカイ」を造ることにしました。

それまで「左脳」・金融脳ばかり使っていた私が、今回は、「右脳」(飲食)文化脳を養うことになり、この大役は松永先生に依頼するしかないという即座にお願いしました。今の銀座の場所は「情報発信基地」とするために選んだものです。

風水インタビュー FENG-SHUI Interview



右 ワインレッドを多用した空間には、上質で豊かな空気が流れています。

左 ミラーを活用した店内は、広がりを感じていただける『特別』な空間となりました。



トカイ
ハンガリーワイン&レストランTOKAJ銀座

東京都中央区銀座4-6-18 銀座アクトビル9F
〒104-0061 TEL.03-3567-8900
E-MAIL: rsv@tokaj.jp

OPEN. Lunch 11:30~14:30(L.O. 14:00)
Dinner 18:00~22:30(L.O. 21:00)
CLOSE. 年中無休(夏期と冬期をのぞく)
U R L: <http://tokaj.jp/>

Q1 『風水店舗』を造られたきっかけとは、何だったのでしょうか……。

大学を卒業し、大手証券会社へ大きな夢を抱き就職しました。その頃の日本経済は大変堅調で『JAPAN AS NO.1』と世界からも言われるような勢いがあり、商学部で勉強した知識と生まれもった行動力で、やる気に満ち溢れていました。ところが、配属された任地が岐阜と聞き、正直、声を出すこともできないほどに意気消沈しました……。

岐阜支店に配属初日、支店長に連れられて岐阜城に行き、そこで「君たちは、織田信長のように全国を制覇するような気概と覇気をもって仕事をしよう」と薫陶を受け、再度、英気が漲ったことを今でもよく覚えています。その後3年3ヶ月、連二無二働き、気がつくとも全国でもトップランクの営業マンとなり、新本社移転と共に当時証券マンの憧れであった「事業法人部」に異動となりました。

話が少し逸れるかも知れませんが、私の一族にある「伊能忠敬」がいます。『血筋』なのでしょうが、目標が定まるとそれに向かって一直線に駆けていく性分がDNAの中にあるのかも知れません。それから退社するまでの6年間で、「ピリオネアブレイヤー」になり、また、史上最年少で課長職にも就くことができました。当時は、朝の7時から深夜まで寝食を惜しんで働いた、その結果の賜物でした。

その頃、「バブル経済破綻」後の規制緩和のひとつで「総合乗合保険代理店」業務が日本でもできることになり、私の興味は大きくそちらに傾いていきました。会社からの叱責や引き止めもありましたが結局、一時は憧れた課長ポストを捨て、新たなビジネスチャンスが大きく開かれた分野でベンチャー企業を立ち上げることに決めました。その事業を大きく成長させていくことで最終的には「株式公開」を目指していく、これが次の私の目標になりました。

そのベンチャー企業と一緒に興したパートナーが、松永先生の大学時代の友人で、それがご縁で松永先生を知り、「風水科学」の世界を識ることもなった契機、きっかけです。

3Q 『風水店舗』を建てられてから、どのような変化や周りからの反応がありましたか……。

『TOKAJ(トカイ)』とは、ハンガリー・トカイ地方の名をとって命名しました。そのトカイの名品ワインがこのお店のシンボルです。その貴腐ワインを使って店の象徴的なデザインにワインタワーを作ったときの驚きは今でも変わりません。お客様からも大好評で、お陰さまでトカイワインの「気品ある黄金色の輝き」がハンガリーのイメージにもなったようです。

お客様からの評判は上々です。「東洋人の舌に合わせた西洋料理を」というコンセプトとこの長細い空間を見事に「ミラー効果」で豪華に仕上げた頂いたデザイン力、また「風水科学」の真髄が随所にちりばめられ、とても豪華で寛ぐレストランとの評判を受けています。

実は、この店は開店以来、一度も広告やプロモーションをしたことがないのですが、毎月、必ずどこかの雑誌、新聞、TV局が取材に来てくれています。元々、『龍が水を飲みに来る場所』を創ってくださいと松永先生にお願いしたのは、その意味するところが「情報の発信基地を創る」ということだったので、これも先生の教えによるもので、その余りに明快な結果に正直、驚いています。

私の事業にも、この店を創ったことが多大な影響を与えてきています。信用力が上がり、人脈が大きく変わりました。それも、今まではまったく異なった、ワールドワイドな人脈が出来上がってきています。

よく大使館の方々とも話しますが、私たち日本が「FAR EAST」、ハンガリーが「FAR WEST」。アジアの極東西の文化交流をもっと進めていくことで、この豊穡のアジア文化を世界に発信し、もっと豊かな世界の創造に寄与していこうと……。

実は、ハンガリーはフォアグラ生産量の世界シェアの80%を占めているほどで、ハンガリーの文化には豊かまだまだ奥深いものがたくさんあります。

ちょうど日本とハンガリー国交樹立から140年目のメモリアルイヤーの今年に、私の長年の夢であった『ジェルボーハウス』を6月に開業できる運びにもなりました。このご縁を更に大切にしていきます……。